

なな山だより

なな山緑地の会会報 第7号 2007・4

カブトムシの幼虫採りに歓声！！



1月10日(水)快晴のこの日、多摩第二小学校の子供たち60人と父兄12人がカブトムシの幼虫を採りにやって来ました。およそ、1年生12人、2年生18人、3年生10人、4年生20人です(写真左上)。

高木会長から幼虫の採り方、育て方の説明を聞きました。「各自、用意した入れ物に3～4匹の幼虫を採取し、腐葉土をたっぷり入れること」などなど...

10人位ずつが幼虫のいる堆肥置場を囲んで(写真左下)、経験のある子はさっと、初めての子はおっかなびっくり採りはじめました。

説明のときは、みんなに行き渡るほど本当にいるの？と半信半疑だった子も、あまりの多さに興奮気味！それもそのはず、腐葉土をそっと除けるとそこにはもう、数匹の幼虫がいる！いる！もちろん全員に3～4匹ずつ行き渡りました。採り終わった子供たちはすぐ山に登り(写真右下)、落葉の積もった斜面はすぐにすべり遊びの場所になってしまいました。



区画用に張ったトラロープは山登りの補助ロープになり、ふんわり積もった落葉は転がりまわる落葉プールに変わりました。1時間半ほど遊んだ子供たちの言葉を借りれば「チョー面白かった！」そうです。これだけ採ってもまだまだ、カブトムシの幼虫は何百匹も残っていました。この次にはもっと沢山の子供たちに来て欲しいものです。冬の雑木林は明るく、楽しい(相田記)。



平成18年度総会開催される

3月25日(日)生憎の大雨の中、竜が峰小学校で平成18年度なな山緑地の会総会が9時半から開催されました。出席者は15名、委任状11名を含めて26名で総会は成立、議事に入りました。

平成18年度活動報告、会計報告に続き、役員改選は全員留任で承認されました。引き続き平成19年度活動計画が発表されました。活動内容は今年の継続だが次のような試みを加えることになりました。

- 1) 間伐材を利用して、角材、板材を作り、ベンチ、テーブル、丸太の小屋掛けを計画する。
- 2) チェンソーの使い方講習、樹木伐採講習を行い、木工にも挑戦する。
- 3) 畑を約2～3倍に拡大し、各種野菜の栽培を試み、収穫時には収穫祭イベントを計画する。
- 4) 近隣小学校、保育園、近隣住民との自然観察会、学習交流会などを通じて、なな山緑地を活用した地域社会との交流、連携をより広げる。
- 5) 「なな山だより」は4月、7月、10月、1月の年4回発行する。

以上が平成19年度活動予算計画と共に異議なく承認されました。質疑応答その他の部では、

隣の山(約0.7ha)となな山を併せて多摩市が都市計画特別緑地保全地区に指定した件、及びわれわれの活動エリアが近い将来拡大することが発表されました。

コナラを萌芽更新し、薪を作る、或いは落葉の堆肥で育てた野菜やキノコを頒布し、カンパして頂くことにより、食の安全を地域に発信していきたいとの提案があり、検討することとしました。

道作りは今後メンテナンスのみを行い道の延長はしない。などが話し合わせ10時50分終了しました。(写真、総会の様子)





花を見せる木

ヤマザクラ

樹木はいずれも、花を咲かせ実を結び世代交代し子孫を増やしています。その中でも、花が咲くと目立って自己を主張するが、花が終わると見向きもされなくなる木があります。その代表がサクラの仲間です。なな山には、ヤマザクラ、ウワミズザクラの2種があります。

ヤマザクラは林の縁の木以外はあまりにも高く大木になりすぎて、花は首が痛くなるほど見上げないと見られなくなってしまっています。葉と花と芽を間近で観察できないためヤマザクラと総称しておきますが、ヤマザクラの仲間にもいろいろあります。サクラは100品種内外、園芸品種は200とも300とも言われるほど種類が多いのです。ヤマザクラは山が皆伐され、日の光が十分に当たるようになると、まず初めに棘のある樹種などと共に芽を出し勢いよく成長していきます。今ある大木は周りの木が利用のため伐採されたときも切られずに大きくなったものと思われま。木を若返らせるためには、この大木を伐採して下床に芽生えさせるか、苗木に植え替えることが必要になります。陽さえ十分に確保されれば、余り高木にならない時期に花を楽しむことができます。

江戸中期以前はサクラの花見の主役はヤマザクラであったそうで、今でも吉野山はヤマザクラの花見です。

ウワミズザクラ(写真右)はブラシのような特異な花形を春の終わり頃開花させます。「なな山」では西北のはずれに1本だけ見られます。この花を知る人は大方ファンになってしまうような気がします。花の向きが下だったり、横だったりして、上を見ないから上不見(うえみず)と言うのが名前の由来と言うのはどうも当たらないようです。古文書によると鹿の肩甲骨の裏に溝を彫り、この木の枝に火をつけてこれを焼き、骨の割れ目を見て占った「裏溝」「占溝」(ウラミゾ)がウラミズ ウワミズになったという説が有力といわれています。



エゴノキ(写真左)も初夏に下向きにたくさんの白い花を咲かせ、散り落ちた花びらがあたりを白く染めるためにその存在がすぐ分かります。「なな山」には株立ちでたくさん見られます。

その他、ヤマツツジ、ツクバネウツギ、マルバウツギも花の盛りは目立ちますが花が終わると忘れ去られそうな木です。これらは数が少なく、「なな山」では希少品種ですので大切に目守っていききたいと思います。

また、春のウグイスカグラ、夏にはナツハゼ、ネジキ、マルバアオダモが清楚な花を見せてくれます。

リレー随筆(7)

三種の神器

須田 協

私がまだナタとノコギリで木を切っていた頃、確か間伐のイベントだったと思います。チェーンソーを使っているのを見て、機械ものが好きだったこともあって単に木を切る道具としてだけではなく、大いに好奇心をそそられました。しばらくはボランティアグループの共用のものを使っていたのですが、使う機会が増えるにつれて、変に癖のついていない自分用のものが欲しくなって、とうとう買ってしまいました。

泥沼に片足を突っ込んでしまった訳です。さて、買ったものの使い方をきちんと教わりたいということで、宇野さんの紹介で今の師匠と知り合いました。よくしたもので私以上に凝り性で、しかも、刃物フェチ(と言ったら失礼ですが)であることが後々明らかになってきました。6月から9月は草刈、12月から3月は枝打ち、その合間に間伐、皮むき、製材、端材での薪作り、天気が悪ければ道具の手入れ、決して楽な作業ではありません。真夏、炎天下での草刈り、冬場は暗い内から出かけて行って北風の吹きさらす中での枝打ち。でも、なぜか惹きつけられてしまう何かが山にはある様に思えてなりません。草刈りも枝打ちも初めは (3ページにつづく)

ホトケノザ シソ科 *Lamium amplexicaule* L.

なな山の広場にホトケノザ(別名サンガイグサ)(写真右上*)が咲いている。二年草で、花は紅紫色、唇形花。葉は鈍鋸歯があり半円形で、上部の対生する葉を蓮座に見立てて「仏の座」と言う。春の七草のホトケノザはタバコ(キク科)のこと。この2種が全く同名であったのか、名前の取り違いなのか、その理由はわからないが、植物にはよくあることのようにだ。



先日エジプト旅行をして、2500年にもわたる花の名前の取り違いに遭遇した。エジプトはナイル川に沿って上エジプト(上流)と下エジプト(下流)に分かれている。上エジプトはパピルスが、下エジプトはスイレンがその地域の象徴とされ、上下エジプトを統一した記念として、多くの神殿にパピルスとスイレンを彫りつけたレリーフが見られた(写真右中)。エジプトの歴史遺産を収蔵しているカイロ考古学博物館の前庭の池には、パピルスとスイレンが植えられていた(写真左上)。しかしながら日本の美術書やガイドブック、また現地地



案内人はスイレンではなく、ハスと言っている。

帰国後調べてみると、植物関係者の多くがハスというのは誤りで、スイレンだと指摘している。「エジプトのハス」「スイレンの一種」などという曖昧な記述の本もある。さらに調べていくと、この問題の発端は古代ギリシャの歴史家のヘロドトス(紀元前5世紀)が著わした『歴史』によるものであろう、ということにたどり着いた。この歴史書は多くの部分に誤りがあることでも有名なのだが。



「ナイルの河水が溢れ、平野が大海と化すとエジプトでロートスといっている百合の類が無数に水中に生ずる。これを摘み取って天日に乾かし、ロートスの実の中にあるケシの類に似たものを臼で搗きつぶし、火で焼いてパンを作る。ロートスの根も食用になり、丸味を帯びた林檎ほどの大きさと、結構甘い味がする。」(『歴史』ヘロドトス著 松平千秋訳 岩波文庫)

植物分類の確立までにはほど遠い時代、ロートス(エジプト語ではない。ロータス=ハス)と記してしまったものが、そのまま世界に伝わり、長いこと語り継がれていたらしい。近年 DNA 鑑定の結果、ハスは「ハス科ハス属」となり、「スイレン目」ではあるが、「スイレン科」から切り離されてしまった。エジプトにおけるハスの記述は、2500年の眠りから覚めるのだろうか。

(写真左下*)ハス科ハス属(*Nelumbo*)英名ロータス、花も葉も水の上高く伸び、実は花が散った後大きく残る。根は食用になる。インド原産と言われ、仏教と結びつき、仏像の台座(れんざ)になる。



(写真右下*)スイレン科スイレン属(*Nymphaea*)英名ウォーターリリー、花や葉は水の上に少し伸びるが水に浮き、実は水中にできる。原産地は特定できないが、世界の温暖地域、熱帯地に分布。



* 印写真は by Shigenobu Aoki

るくに出来ませんでした。枝打ちなどは、まず刃物検査の段階で落第、やらせてもらえません。修行の時期がしばらく続き、夏は大鎌、冬は枝打ち用のナタを研ぎました。ついでに家の包丁も…。夏の草刈り用の大鎌は、柄は軽い杉を使います。檜は滑るので×。山で採ってきた適度に反っているものを水につけては乾かし何度も繰り返して本来の癖を出させ、一番具合のいいものを選んで手になじむように削って使います。刃は片刃が両刃で、好みと作業スタイルで人それぞれ違いますが、一般的には片刃です。研ぎ方が悪いと砥石の跡がついて柔らかい草が刈れません。枝打ちのナタも同様です。切れるナタで打った枝跡は、傷口がきれいなのでノコギリでの枝打ちを嫌う山主さんもいます。チェーンソーも切れないと疲れます。

小さい排気量のチェーンソーで太い木や堅い木を切るとなかなか切れませんし、刃も傷みます。ちゃんと研いでおけば楽に切れますし、気持ちよくオガクズが出てきます。鎌もナタもチェーンソーもみんな刃物です。私にとっては三種の神器...ということは私もやっぱり刃物フェチ!?

今回は、山のイベントで拡声器の要らない宇野さんへバトンタッチです。

なな山日記(活動・観察記録)

とたに えま

2006・12・24(日)晴れ/くもり気温13

2006年最後の活動。なな山でトン汁を作ろう&食べよう。参加者23人。
「作業」枝拾い、枝下ろし、枝整理、笹刈払い(住宅付近)、くず掃き。
「観察」西の谷付近の木に絡み付いているテイカカズラは害を与えない蔓。山頂付近のコナラにコブが沢山できているのは、虫か病気。切るかもです。シイタケ、ナメコができていました。かなりの量採れてトン汁の具になりました。



06年最後の活動日なので昼に材料各自持ち寄りてトン汁パーティー。美味しかった(写真右)。アルパの演奏は戸谷の意外な一面だったでしょう?!それから歌とハンドベル。全員に参加して貰ってよかった!(o)。

2007・1・14(日)晴れ気温13



新年最初の活動。ご神木の前に機材、道具を並べ、今年一年の安全と会員一同の健康を祈願(写真左)。参加者12人。

「作業」枯木の伐採、ヒノキの枝打ち、くず掃きと落葉の運搬。

「観察」全員で冬芽、花芽の観察、樹木の樹皮による見分け方など、冬の林を観察。シュンランは早くも花芽をつけ、キチジョウソウは赤い実を、マンリョウもあちこちで赤い実をつけていました。昼食の時、モズがやって来て鳴いていました。

2007・1・28(日)晴れ気温11

この季節にしては暖かく活動日和。住崎さんのお仲間数人参加。参加者17人

「作業」くず掃き、落葉囲いの修理、落葉と米ぬかを混ぜて踏んで堆肥作り、ホダ木用伐採、ソダ丸作り、植生調査、養生囲い、枝打ち。昼に中原さんがネギ(去年から畑に植えておいた)でお味噌汁を作ってくれました(写真右)。



2007・2・11(日)晴れ気温15

仲間が増えました(^o^)
ウエルカム。参加者13人。



「作業」くず掃きが中心。落葉囲いの修理、修理用ヒノキ4~5本伐倒、植物養生、熊手修理。

「観察」今日の花=ウメ、12月に強剪定したのに可愛い花をつけていました。

隅田さんと東さんが新しく入会されました。仲間が増えてうれしい。大歓迎!

吉住さんが熊手を上手に修理してくれました。竹製は壊れやすいが、軽くて使いやすい。大切に直して使いましょ(写真左)。戸谷がバレンタインを意識してチョコのお菓子にトライして差し入れしたけど...ちょっと...?

2006・2・25(日)晴れ気温7

真冬日、今冬一番の寒さ。なな山で霜柱をはじめて見ました。会員が更に2人増えました。朝、寒さ対策で準備体操をしました。(揃ってないけど(^;)) (写真右)。参加者11人。

「作業」東奥のくず掃き、落葉囲いの修理、修理用ヒノキ(枯木)2本伐倒、植物養生、ヒサカキ伐採。

「観察」梅林でキチジョウソウ、東の谷・広場でヒガンバナ発見。広場では、オオイヌフグリ、ホトケノザ、カントウタンポポなど春の花がもう咲いていました。

今日の鳥=モズ、シジュウカラの声、ムクドリ、ツグミが来ました。

東谷の入口にタヌキの死骸。隣の山に住んでいたのか? どうして死んだのか? 不明。市役所に連絡しました。(生態調査をしているそうです)。



(後半、戸谷さんが試験勉強のため参加できず、鎌田が一部代筆しました。)

なな山だより 第7号
発行
発行責任者
住所
編集委員

平成19年4月8日発行
なな山緑地の会
高木直樹
多摩市和田1394 13
鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

編集後記

新年度が始まりました。会員数がさらに増え、なな山も賑やかになりそうです。活動エリアも増えるか? という情報もあります。なな山の花々も綺麗に咲いて希望溢れる春ですね。 K